

群馬銀行レポート 2021

GUNMA BANK REPORT

群馬銀行のご案内



群馬銀行 企業理念

地域社会の発展を常に考え行動すること これが私たちの事業です

私たちは地域の一員としての責任を自覚し、広く皆さまとの信頼関係を深め、地域繁栄の担い手になりたいと考えています。そのために金融サービスの向上に努め、さらに活動分野を拡げながら健全な成長を続けます。そして産業・文化の発展と豊かな生活づくりのお役に立ちたいと願っています。

お客さまとの創造的な関係を深めること これが私たちの仕事の原点です

私たちはお客さまとの心のきずなを大切に、お客さまにとって何が最良なのかを考え創りだしていきます。そのために何をすればよいのか、私たちの仕事はここから始まります。お客さまとともに未来を築いていく、これが私たちの願いです。

よき企業人であるためによき市民であること これが私たちの活動の基本です

私たちはよき市民でありたいと思います。それが皆さまから共感と信頼を得られる第一歩となります。そのために良識を大切に、社会における役割を積極的に果たしてまいります。私たちはよき市民として日々の仕事に取り組んでいきます。

一人ひとりの顔が見える表情豊かな組織であること これが私たちの大切にしている企業風土です

私たちは個性を生かした活力あふれる組織を創ります。そのためにお互いの人間性を尊重し、十分な能力発揮の機会と的確な評価を大切にします。そして働きがいのある企業風土を培っていきます。

群馬銀行イメージソング

「この街で」

群馬銀行は、多くの方に親しみを持っていただき、より愛される銀行となることを目的として、2017年にイメージソングを制作しました。群馬県出身の作曲家である吉田るさお氏が手掛けた「この街で」は群馬県の風景を織り込み、誰もが持つ郷愁と、明るい未来への希望を込めた曲です。



作詞・作曲 吉田るさお

ああ いつか 記憶の中 旅してた
忘れぬ 水の匂い 風の音

目を閉じればそこに
やさしい天使が手を振る

あこがれた 都会の空 泳ぎたい
そうこは 色あせない いつまでも
物語はつづく あの地平線に向かって

悲しみさえもララ鳥は歌うよ
山に沈む太陽をみて思うよ
きざんだ 胸にいつまでも
この道はかがやく

澄みきった 赤城の空 吸い込んだ
思い出す 利根の川瀬 尾瀬ヶ原
清らかな水が 僕らの身体に流れる

胸おどらせてララ僕は歌うよ
夜空にひかる星をみて思うよ

やがてのぼる 朝日を目指して

この道はかがやく

群馬銀行レポート 2021

GUNMA BANK REPORT

群馬銀行のご案内

目次

頭取メッセージ	2
群馬銀行グループ	6
アライアンスへの取り組み	6
群馬銀行グループの活動	7
ESG への取り組み	10
財務情報ハイライト	14
非財務情報ハイライト	15
店舗の概要	16

会社概要

(2021 年 3 月 31 日現在)

名 称	株式会社群馬銀行 (The Gunma Bank, Ltd.)
設 立	1932 年 9 月
本店所在地	群馬県前橋市元総社町 194 番地
資本金	486 億円
従業員数	3,006 人 (除く、臨時雇用)
拠点数	国内 158 店舗 (群馬県内 110、県外 48) 海外 1 店舗 (ニューヨーク)
子会社	4 事務所 (香港、上海、バンコク、ホーチミン)
子会社	国内 8 社 海外 1 社 (清算中)
関連会社	国内 1 社

総資産	10 兆 5,987 億円
預 金	7 兆 7,527 億円
貸出金	5 兆 7,496 億円
純資産	5,170 億円
総自己資本比率 (国際統一基準)	連結 12.74% 単体 12.18%
格 付	日本格付研究所 (JCR) AA 格付投資情報センター (R&I) A+ ムーディーズ (Moody's) A3 スタンダード&プアーズ (S&P) A-

(注) 連結従業員数 3,175 人 (群馬銀行単体 2,976 人、子会社等 199 人)
なお群馬銀行単体 2,976 人は「海外現地採用および受入出向者」を含み、「出向者」等を除いた就業ベースの従業員数。

頭取メッセージ



持続的な地域社会の構築は
最重要課題
急速に変化する環境に対応し、
強固な経営体質を築く

群馬銀行
代表取締役 頭取
深井 彰彦

はじめに

新型コロナウイルスの感染拡大は、世界中のあらゆる分野に大きな影響を及ぼしました。私たちは、いかなる状況においても金融仲介機能を十分に発揮し、地域経済を支えていく使命を帯びており、全力で地域経済の支援にあたってきました。特に、地域への円滑な資金供給において、2021年3月末までに約1万9千先から事業資金に関するご相談を受け、3,977億円のコロナ関連資金の貸出を実施しています。

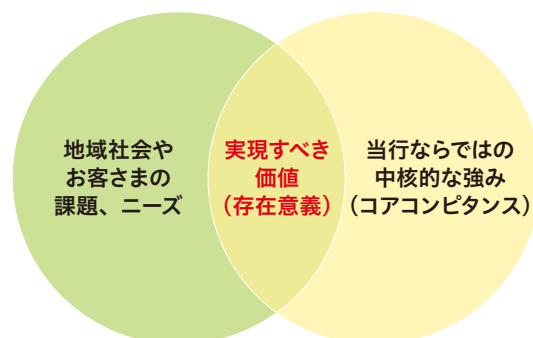
私たちは、企業理念の一番目に「地域社会の発展を常に考え行動すること」を掲げており、SDGs宣言でも重点課題の一番目に「地域経済の持続的発展」を掲げていますが、コロナ禍を通じて、改めて私たちの地域社会に対する役割の重要性と責任の大きさを認識した1年となりました。

また、新型コロナウイルスは、経済への影響だけでなく、新しい生活様式やデジタル化の加速など、さまざまな変化をもたらしました。こうした環境を踏まえ、私たちは引き続きお客さまの金融支援に全力で取組むのはもちろんのこと、お客さまの成長に資する支援メニューの充実や、持続的な地域社会構築への取組みが一段と重要になると考えています。

当行の存在意義

当行は、中期経営計画「Innovation 新次元～価値実現へ向け～」において、お客さまと当行双方の「価値実現」を掲げています。私たちがお客さまに対して実現すべき価値は、次の二つの要素が重なる領域にあると考えています。

一つは、地域社会やお客さまの課題やニーズ、そしてもう一つが当行ならではの中核的な強みであるコアコンピタンスです。すなわち、当行ならではの強みを活かし、地域社会やお客さまの課題やニーズを解決していくことが、私たちが実現すべき価値であり私たちの存在意義です。私は、こうした価値を正しく定義し、有効に経営資源を活用していくことで、お客さまや地域社会のサステナビリティに貢献できるとともに、当行の持続的な収益向上にも繋げていけると考えています。



■ 地域やお客さまの課題

当行の主要営業地域である群馬県は、豊かな自然環境による魅力的な観光資源と豊富な農畜産物を兼ね備え、輸送機器や食品を中心とした製造業が経済を牽引しています。近年も高速道路など交通網の整備が進み都心へのアクセスが良好なことや、自然災害も比較的少ないことから、工場立地件数・立地面積は全国上位が続いています。

一方で、高齢化や人口減少に伴う地域の持続可能性、特に事業承継や人材の不足、生産性の向上等が重要な課題だと認識しています。例えば、事業承継については、後継者不在の相談だけでなく「後継者へ株式を集約したい」、「2人の親族へ承継させたい」などさまざまな要望がありますし、人材については、「社長の右腕になる人材が欲しい」、「新たな事業を任せられる管理者が欲しい」といったニーズが増えています。

■ 当行のコアコンピタンス

では、私たちならではのの中核的な強みであるコアコンピタンスは何か。

私は、お客さまとのネットワークとリレーションに基づく「情報力」だと考えています。当行は、1932年に誕生した群馬大同銀行をルーツに持ちますが、戦後すぐに県外に支店を開設するなど、首都圏に至る広域の営業ネットワークを築いてきました。こうしたネットワークに基づく長年のお客さまとの取引や、信頼関係の中で培った広くて深い情報の蓄積が、まさにコアコンピタンスとなっています。営業活動の中で得られた日々の情報は、CRMシステムに蓄積されていきますから、情報を繋ぎ合わせることでお客さまや地域の課題解決に繋がったり、AIなど最新技術を活用することで新たな価値の提供や新たなビジネスにも繋がったりできると考えています。また、2020年12月に地銀広域連携「TSUBASA アライアンス」に参加したことにより、当行のネットワークに限らず他行と連携することで、課題解決の幅はさらに広がりました。

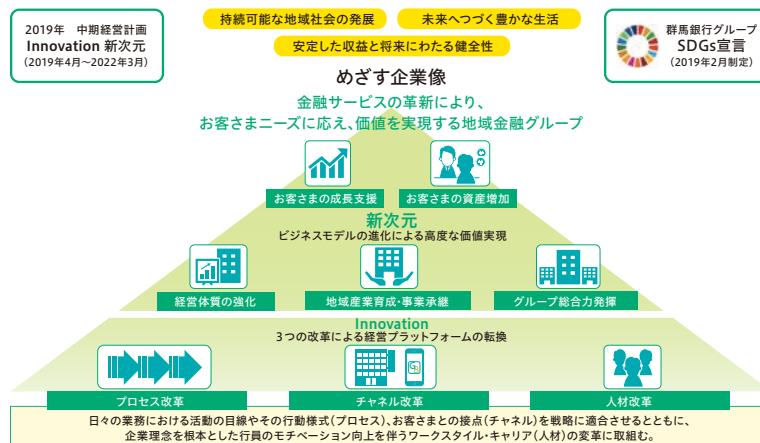
こうした強みを活かしてお客さまの価値を実現することを目指し、私たちは中期経営計画「Innovation 新次元」に取り組んでいます。

中期経営計画「Innovation 新次元」の取り組み

■ 中期経営計画のコンセプト

当行では、2019年3月までの6年間にわたる2回の中期経営計画において、「価値ある提案」を基本コンセプトに、当行ならではの提案を行いサポートすることで、地域とお客さまとともに成長することを目指してきました。2019年4月から3年間の中期経営計画では、「価値の提案」を礎に、その提案価値を「実現」させることに主眼を置き、めざす企業像を「金融サービスの革新により、お客さまニーズに応え、価値を実現する金融グループ」としています。

めざす企業像を実現するための基本方針には、「3つの改革による経営プラットフォームの転換」と「ビジネスモデルの進化による高度な価値実現」を掲げています。地域課題や環境の変化も踏まえ、どのような価値を実現できるか、さらに深掘りしていきたいと考えています。



2021 年度の取組み

2021 年 3 月期は、与信費用の増加により最終利益は減益となりましたが、ぐんぎん証券を含むグループの預かり金融資産業務が伸長したこともあり、連結非金利業務利益は 191 億円と、中期経営計画最終年度の目標である 200 億円に対して 95% まで進捗しています。その他の主要計数も概ね順調に推移していると認識しています。

2021 年度は、事業承継支援や相続関連サービスなど、行内で強化してきた支援態勢を活かしてお客さまの課題をより多く解決し、当行の収益にも結実させる 1 年間にしたいと考えています。

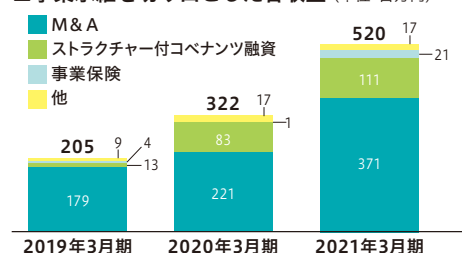
また、新型コロナウイルスにより、これまで認識しつつあったさまざまな環境変化のスピードが加速していますから、「3つの改革」もさらにスピードを上げて取り組んでいきます。プロセス改革としては 2021 年 1 月から順次行員に配付しているモバイルパソコンを起点に仕事の質や生産性を高めていきます。チャネル改革では、TSUBASA アライアンスとも連携しつつ、アプリの刷新などデジタルチャネル向上に取り組んでいくとともに、店舗網の見直しをさらに進め、行員をコンサルティング業務など付加価値の高い分野に再配置していきます。人材改革は、貢献度に応じた人事制度の整備や、タレントマネジメントシステムを活用した戦略的人材配置、研修制度・自己実現支援・自己啓発支援による人材育成支援を強化していきます。

次期中期経営計画策定に向けて

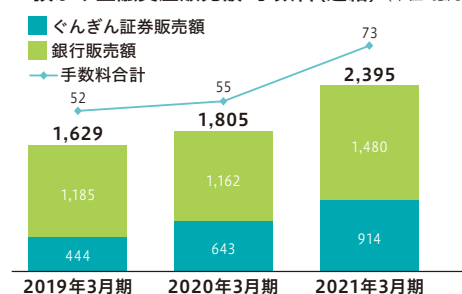
2022 年 4 月から新たな中期経営計画をスタートさせますが、現在の「価値実現」のコンセプトを引き継ぎつつ、お客さまにどのような支援ができるか、さらに深掘りしていくことが重要だと考えています。収益力の向上と並行して経費の見直しも重要だと考えており、日本銀行による「地域金融強化のための特別当座預金制度」にチャレンジすることで、経営の質をより高めていきたいと考えています。その上で、銀行法改正等による規制緩和を受け、新たな成長領域への取組みを探索していきます。具体的には、地域の課題を考慮し、地域商社や登録型人材派遣について行内で議論を行っています。

さて、当行ならではの強みと地域やお客さまの課題が重なる領域が、私たちが提供すべき価値であり存在意義であると申しあげましたが、この領域を当行の「パーパス」として改めて定義を行おうと考えています。私たちの企業理念は、私たちはどうあるべきかといった価値観や行動基準を包含した普遍的な概念です。企業理念で定義する行内的な視点をベースに、対外的な視点、すなわち私たちは社会に対して何ができるのか、どんな価値を提供するために存在しているのかといった概念を追加します。パーパスは行外のステークホルダーの皆さまから共感を得られるものでなければいけません。さらに重要なのは、行員の判断や行動の軸として浸透させることだと考えています。そこで、パーパスを自分ごととして捉えてもらうために、全行員から任意でパーパスに関する意見を募集しています。集まった意見をもとにしっかりと議論し、パーパスを定め、2022 年度から始まる次期中期経営計画にも反映していきたいと考えています。

■事業承継を切り口とした各収益 (単位: 百万円)



■預かり金融資産販売額・手数料(連結) (単位: 億円)



ESG の取組み



■ 環境への取組み

環境や社会問題に対して、金融機関として主体的な役割を発揮し、持続可能な社会の実現に貢献していくことが重要であると考えています。2021 年 6 月に、環境負荷の高い事業や人権・貧困問題の根源となるような投融資を制限し、環境や社会への好循環を促すため、「環境・社会に配慮した投融資方針」を制定しました。並行して、サステナビリティ・リンク・ローンの取扱いを開始し、お客さまの環境や社会課題解決に向けた取組みの支援も強化していきます。

また、当行では「地球環境の保全と創造」に向けた取組みとして、温室効果ガス排出量と紙の使用量における削減目標を設定しています。行内では諸会議や各種申請書のペーパーレス化が進んでおり、2020 年度のコピー用紙使用量は 2013 年度比で 30.2%削減し、2025 年度の目標として掲げた 30%削減を前倒しで達成しています。現在、お客さまへの預り証や契約書等の電子化も進めており、さらに紙の使用量削減を進めていきます。

■ 地域のサステナビリティに向けた取組み

2020 年 12 月に投資専門子会社「ぐんま地域共創パートナーズ」を設立し、資本支援を伴う地域企業への事業再生や事業承継支援、ベンチャー支援が可能な体制を整備しました。2021 年 3 月には産学官金連携による「ぐんま次世代産業創出・育成に関する連携協定」を締結し、次世代産業の創出・育成を積極的に行い、地域の活力向上を目指していきます。

また、群馬県の主要産業として製造業、特に自動車などの輸送用機器や観光業が挙げられますが、CASE といった業界を取巻く環境の変化やコロナ禍を経て、大きな産業構造の変化が予想されます。そのような中で、私たちは地域金融機関としてどのような役割が担えるのか、自治体や外部企業とも連携しつつ議論を進めていきたいと考えています。

■ ガバナンス強化への取組み

取締役会の実効性確保の前提条件である多様性を確保するため、「スキルマトリクス」を作成し、株主総会招集通知や統合報告書等への掲載を行いました。スキルマトリクスを通して、取締役および監査役に期待する役割や構成の適切性についての開示情報を充実させていきます。

お わ り に

私たちは、「群馬銀行グループの価値創造プロセス」にあるさまざまな資本を活用し、これまで申しあげてきたような取組みを通してステークホルダーの皆さまに価値を提供することで、持続可能な地域社会の実現と経済的価値の創造に努めていきます。

私は、好循環を築いていくうえで、特に重要な要素が人的資本であると考えています。当行は人材改革に対するさまざまな取組みを行っていますが、私自身も従業員に対してあらゆる仕事に有意義感や納得感を持ってもらうこと、すなわちセンスメイキングを重視し、支店長会議や施策の意義を行員向けに伝える場として設けている「行員向け IR」で行員に語りかけています。

デジタル化への投資はもちろん加速して進めていきますが、デジタル化が進むほど人にしか提供できない価値が重要になってくると考えられます。デジタルを活用しながらさまざまな情報を繋ぎ、私たち群馬銀行グループの一人ひとりが金融面にとどまらない幅広い価値の提供に取組んでいくことで、お客さまとともに新たな地域社会を創造していきます。

最後になりますが、皆さまには、今後とも温かいご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

2021 年 7 月
代表取締役 頭取

深井 彰彦

群馬銀行グループ

グループ総合力の発揮による多面的なニーズ対応

群馬銀行グループは連結子会社 7 社、持分法適用子会社 2 社および持分法適用関連会社 1 社で構成され、銀行業を中心に幅広い金融商品・サービスを提供しています。



アライアンスへの取組み

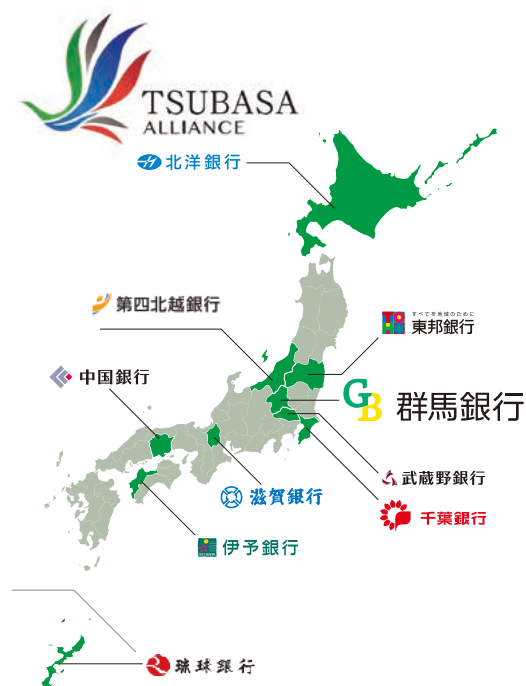
アライアンスによる付加価値の高い金融サービスの提供

群馬銀行グループは「TSUBASA アライアンス」および「フィンクロス・パートナーシップ」に参加し、業務効率化や共同化、情報共有等を行っています。

TSUBASA アライアンス

2020 年 12 月 11 日付で地方銀行 10 行による広域連携「TSUBASA アライアンス」に参加しました。TSUBASA アライアンスは当行と同様の課題認識を共有する全国各地のトップバンク 10 行が広く連携する枠組みであり、共通する課題に協働して取組むことで、参加行のトップライン向上とコスト削減を図りながら、地域の持続的な成長を目指していきます。

TSUBASA アライアンスは合併や経営統合とは一線を画し、各行の独自性を尊重しながら、事務・システムの共同化や相続関連業務、国際業務、グループ会社の活用など幅広い分野で協業を行っています。今回当行が参加したことで新潟（第四北越銀行様）～群馬～埼玉（武蔵野銀行様）～千葉（千葉銀行様）の面的なつながりができました。この点も活用し、シンジケートローンの共同組成や相互招聘、お客さま同士のマッチングや地域創生などでさらに効果的な取組みを行ってまいります。

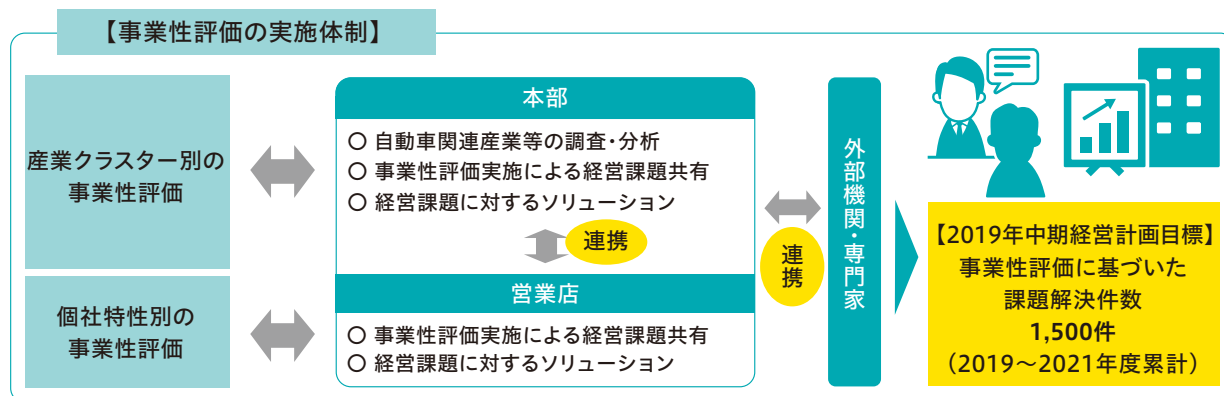


群馬銀行グループの活動

法人のお客さまへの取組み

(1) 事業性評価に基づく課題解決

当行では、お客さまの事業拡大のみならず、人事、営業、リスク管理などさまざまな顕在化している経営課題や潜在的な経営課題の克服に向け、最適なソリューション提案（価値ある提案）を行い、その価値を実現して初めて、お客さまとの共通価値を創造できると考えています。そのために、経営者等との対話を重ね、経営課題に関する認識を共有するための「事業性評価」の取組みを強化しています。

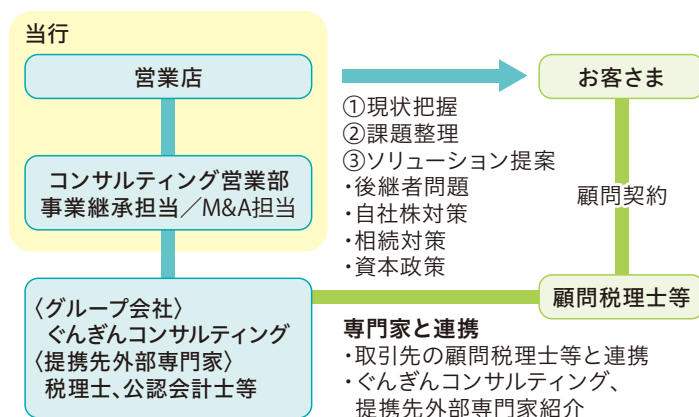


(2) 事業承継

経営者の高齢化や後継者問題が懸念されるなか、お客さまの事業承継についての経営課題は、技術の伝承・サプライチェーンの維持・雇用の継続など、地域経済に大きな影響を与えます。これまで、お客さまとの面談を通じ、①現状把握 ②課題整理 ③ソリューション提案等の各種事業承継支援を行ってまいりましたが、中小企業に対する事業承継支援が従来にも増して地域金融機関に求められているなか、2018年度からは全営業店のお客さまの事業承継支援に取り組んでいます。

営業店とコンサルティング営業部、また、ぐんぎんコンサルティングが一体となり、課題整理やソリューション提案等を通じ、お客さまの課題解決に向けた支援を実施しています。また、お客さまと専門家が個別相談できる場の提供等を通じ、課題解決に努めています。

【活動スキーム】



【オンラインセミナー】

セミナー名	開催時期	参加者累計
事業承継・相続セミナー	2020年11月	60名
中堅・中小企業のためのM&Aセミナー	2020年12月	25名

(3) M&A への取組み

当行単独での支援や提携する外部専門家との連携により、2020年度中は9社の後継者不在のお客さまにM&Aによる事業承継の支援を行いました。また、後継者未定の中小企業、小規模事業者等の事業承継課題解決支援を加速させるため、初のオンラインによるM&Aセミナーを開催しました。

■ 2020年12月 「中堅・中小企業のためのM&Aセミナー」

参加者：25名 講師：株式会社日本M&Aセンター

(4) ビジネスマッチング

お客さまの生産性向上等に資するよう、グループ会社機能の提供、当行の外部連携先の紹介、販路開拓支援等を積極的に展開しています。

また、2019年9月より「ぐんぎんビジネスマッチングシステム」を導入し、お客さまのニーズ案件情報をデータベース化することで、より高度なビジネスマッチングの実現を図っています。

■ 2020 年度 紹介件数…3,735 件
成約件数…1,491 件

(5) 人材紹介業務

当行は、2020年1月に「有料職業紹介事業」の許可を取得し、人材紹介業務に取り組んでいます。本業務を起点に人材コンサルティングに積極的に取り組み、お取引先企業の事業成長サポートと地域経済の活性化に貢献してまいります。なお、当行は2021年4月、内閣府の「令和2年度先導的人材マッチング事業」の間接補助事業者として採択されました。

海外販路開拓に向けた個別オンライン商談会
(2021年1月開催)

(6) 海外取引支援

グローバル化の進展により、海外進出・販路拡大ニーズが大きくなっています。当行は海外拠点（1支店4駐在員事務所）を中心としたネットワークを活かし、お客さまの海外進出および販路拡大を支援しています。コロナ禍において現地への渡航が制限されるなか、海外販路開拓に向けたオンライン商談会を開催しました。



(7) 私募債発行

「私募債」発行による資金調達支援を行い、多様化するお客さまの資金調達ニーズにお応えします。また、資金調達支援とともに、お客さまのSDGsへの取り組みを通じた社会貢献ニーズに応えるため、ぐんぎんSDGs私募債等を取扱っています。

(8) ぐんぎんコンサルティング

お客さまの経営課題に対する解決支援において、高い専門性を要する場合や複雑で難度の高いコンサルティングが必要となる場合、専門性を有するぐんぎんコンサルティングのコンサルタントが最適なソリューションを提供し、課題解決に向けた実行支援を行っています。

(9) ぐんぎん証券

ぐんぎん証券と連携し、ぐんぎん証券が取扱っている株式や投資信託、債券等のさまざまな金融商品や専門的なサービスの提供により、お客さまの幅広いニーズにお応えし、余資運用をサポートしています。

(10) ぐんま地域共創パートナーズ

2020年12月、投資専門子会社「ぐんま地域共創パートナーズ」を設立しました。2021年3月には当行と「ぐんま地域共創ファンド」を組成し、事業承継や事業再生、ベンチャー等の支援が機動的に行える態勢を拡充しています。

ぐんま地域共創ファンドのスキーム図



個人のお客さまへの取組み

(1) 預かり金融資産

○お客さまの安定的な資産形成の実現

バランス運用型のコアファンドを拡充したほか、ESG 投資の一つであるインパクト投資（社会的課題の解決と投資のリターンの二つの利益の獲得を目指す投資手法）を行う ESG ファンドや低リスク志向のお客さま向けに元本確保型ファンドの取扱いを開始しました。

○長期・積立・分散投資によるお客さまの資産形成支援

長期間の税制優遇が得られる「つみたてNISA」の専用商品を拡充するとともに、積立商品キャンペーンを実施しました。本キャンペーンでは、地域活性化も目的とし、商品は群馬県内で利用できる温泉旅行宿泊券等としました。

○人生 100 年時代への対応

資産運用で金の寿命を延ばしながら、定率で分配金を受け取る機能を持った投資信託商品や長生きリスクに備える生命保険商品を導入しました。

(2) 相続関連業務

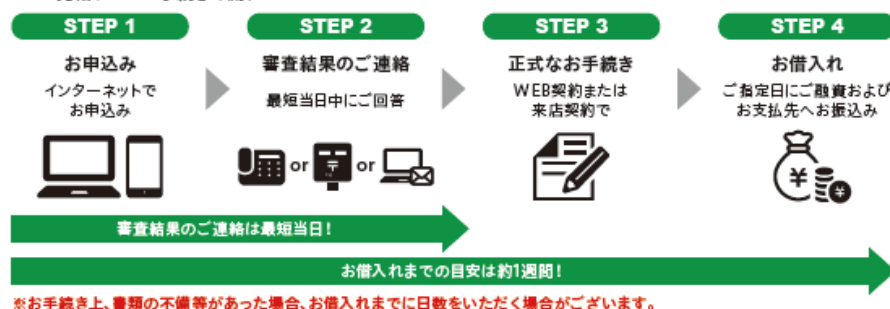
本部専担者のさらなる増員により、遺言信託や遺産整理業務などの相続関連業務への推進・管理体制を強化し、円滑な資産承継をサポートしていきます。

(3) 個人貸出

住宅ローン、アパートローン、無担保消費者ローンなどを取り扱っています。

多様化するお客さまニーズに応えるため、電子契約サービス（2021 年 10 月導入予定）や WEB 完結サービスを導入し、お客さまの利便性向上を図っています。

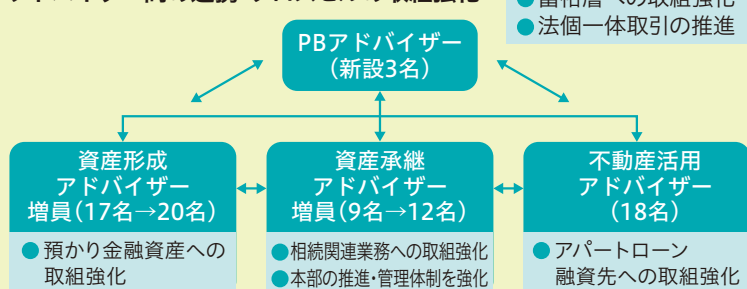
WEB 完結サービス手続きの流れ



ウェルスマネジメントグループの強化

プライベートバンキング（PB）アドバイザーの新設や各種アドバイザーの増員等、ウェルスマネジメントグループの機能・態勢強化を行い、アドバイザー間の連携やクロスセルの実践により、預かり金融資産残高の増強や相続関連業務等の推進強化に取り組んでいます。

アドバイザー間の連携・クロスセルの取組強化



休日相談拠点「個人相談プラザ」

「前橋」「高崎」「EAST」の3店舗で、平日にご来店いただくことが難しいお客さまの資産運用、保険、各種ローンのご相談にお応えしています。2020 年 4 月からは個人相談プラザ前橋に休日限定の相続相談窓口を設置し、相続の専門スタッフがお客さまの相続ニーズにお応えしています。



個人相談プラザ前橋



個人相談プラザ高崎



個人相談プラザEAST

ESG への取り組み

SDGs 宣言と重点課題

2019年2月に策定した「群馬銀行グループ SDGs 宣言」では、当行グループの事業内容や営業エリアから、特に貢献が可能な7つの目標を中心に4つの重点課題を定め、事業活動を通じた社会・環境課題等への取り組みを進めています。SDGs 宣言の考え方をもとに策定した中期経営計画における各施策に取組むとともに、課題解決に向けた新たな取り組みを進めることで、持続可能な社会の実現と経済的価値の創造に貢献していきたいと考えています。



群馬銀行グループ SDGs 宣言 (GB Sustainability Policy 2030)

私たちは、地域社会の発展を常に考えた事業活動の推進を通じて、
SDGs（持続可能な開発目標）の達成に貢献し、
持続可能な社会の実現と経済的価値の創造に努めてまいります。

重点課題と取組方針

地域経済の 持続的発展

地域の事業者の皆さまの成長支援や、地域活性化に向けた取組みを充実させるとともに、お客さまの多様なニーズに応じた金融サービスの提供により、地域経済の持続的な発展をサポートします。
次世代の担い手を育成するための多様な教育機会の提供・拡充に努めるとともに、地域の皆さまの金融リテラシー向上に向けて、金融経済教育の充実に取組めます。

地球環境の 保全と創造

群馬銀行環境方針に基づき、環境保全や美しい環境の創造に取組むお客さまを支援するとともに、私たちの事業における環境負荷の低減に取組めます。

多様な人材の 活躍推進

女性や若年層、シニア層などすべての職員が生き生きと活躍できる職場づくりに向けて、役職員の多様性を高め、その活躍に向けた育成や柔軟な働き方の実現に取組めます。

パートナ シップの推進

地方公共団体や法人、個人のお客さまなどとのパートナーシップにより、地域全体で持続可能な社会の実現に向けて取組めます。

主な取組み

- 起業支援の充実
- 事業承継課題への網羅的な取組み
- 資産形成や資産承継等に資する金融サービスの提供
- 高校や大学等での金融経済教育講義の実施
- サステナビリティ・リンク・ローンの取扱い開始



- 再生可能エネルギー向け融資や省エネローン等の取扱い
- 「ぐんぎんの森」保全活動
- 群馬銀行環境財団を通じた環境保全活動支援
- タブレットの活用や WEB 口座によるペーパーレス化の推進
- グリーンボンドの発行



- 「L-NEXT」（女性活躍推進チーム）など女性活躍推進に向けた取組み
- 柔軟な働き方の実現に向けた制度・環境整備



- ぐんぎん SDGs 私募債による啓蒙と SDGs に資する活動支援
- 地方公共団体等との連携による地域全体での SDGs 推進



環境への取り組み

当行では、2009年5月に制定・公表した「群馬銀行環境方針・環境行動基準」に基づき、自ら環境負荷の低減に取り組むとともに、設立した環境財団を通じて、環境保全活動の支援や環境保全教育にも取り組み、事業活動を通じては環境保護に貢献できる金融商品の販売に努めるなど、環境保全に関する積極的な取り組みを続けています。

《環境方針》

群馬銀行は、環境と産業が両立する真に豊かな地域社会の実現を目指し、ふるさととの自然環境を大切にしていきたいと考えています。環境保全に積極的に取り組み、市民としての責任ある役割を果たしていきます。

《環境行動基準》

1. 省資源、省エネルギー、リサイクル活動を推進し、環境への負荷の低減に努めます。
2. 金融商品・サービスの提供などを通じて、環境保全に取り組むお客さまを支援します。
3. 役職員に対する環境教育を推進し、役職員の環境保全活動を支援します。
4. 地域における環境保全活動を支援します。

気候変動リスクへの取り組み

群馬銀行は、「群馬銀行グループSDGs宣言」の重点課題の一つである「地球環境の保全と創造」に向けた取り組みとして、2020年7月にTCFD※提言への賛同を表明しました。今後、気候変動が当行の経営にもたらす影響などに関して、情報開示の充実を進めてまいります。



※ Task Force on Climate-related Financial Disclosures
(気候関連財務情報開示タスクフォース)

ガバナンス

○当行は、TCFD提言に沿った開示を進めるとともに、気候変動を含む環境への取り組み状況について常務会で議論を行い、逐次、取締役会に報告しています。

戦略

- 脱炭素社会の実現に向けて、サステナブルファイナンス（持続可能な社会を実現するための金融）を拡充し、お客さまの環境保全に対する取り組みをさまざまなかたちでサポートしてまいります。
- 気候変動リスクが当行の与信ポートフォリオに与える影響を把握するため、移行リスクと物理的リスクによる影響の分析を検討してまいります。

リスク管理

- 「環境・社会に配慮した投融資方針」を新設し、気候変動に影響を与えるセクターに対する投融資方針を定めています。
- 気候変動リスクを当行の事業・財務に影響を及ぼす重要なリスクとして認識し、リスク管理体制の構築を検討してまいります。

指標と目標

○温室効果ガス排出量の削減目標と紙（コピー用紙）の使用量における削減目標を設定しています。

温室効果ガス排出量削減目標

2025年度	2013年度比 23%以上削減	2020年度実績 同 15.9%削減
2030年度	2013年度比 26%以上削減	

紙（コピー用紙）の使用量削減目標

2025年度	2013年度比 30%削減	2020年度実績 同 30.2%削減
2030年度	2013年度比 40%削減	

※排出係数の増減の影響を排除する為、電気の排出係数を2013年度の計数にて固定して算出。

※温室効果ガス排出量の算出範囲は、群馬銀行国内拠点におけるスコープ1、スコープ2、スコープ3の一部。

「環境・社会に配慮した投融資方針」の新設

当行は、2021年6月、サステナビリティを考慮した環境・社会課題解決に資する取組みとして、「環境・社会に配慮した投融資方針」を新設しました。環境や社会に大きな影響を与える可能性があるセクターへの投融資に関する取組方針を定め、取組方針に基づいた投融資を行うとともに環境や社会課題解決に向けたお客さまの取組みを積極的に支援することで、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

サステナビリティ・リンク・ローンの取扱開始

当行はお取引先のサステナビリティ経営をサポートし、企業価値向上および持続可能な社会の実現を目指すため、2021年6月より「サステナビリティ・リンク・ローン」の取扱いを開始しました。

本商品は2019年3月にローン・マーケット・アソシエーションが策定した「サステナビリティ・リンク・ローン原則」に準拠した融資手法で、野心的かつ有意義な挑戦目標を設定し、お取引先のSDGsやESGの取組状況と融資条件が連動するものです。また、第三者評価機関がサステナビリティ・リンク・ローン原則への適合性やサステナビリティ・パフォーマンス・ターゲットの妥当性等をレビューします。

グリーンボンドの発行および「群馬銀行グループ グリーン／ソーシャル／サステナビリティボンドフレームワーク」の策定

当行は、2019年11月、SDGs達成への取組みとして、再生可能エネルギー、エネルギー効率およびクリーンな輸送などのグリーンプロジェクトを資金使途とするグリーンボンドフレームワークを策定し、他の地方銀行に先駆けてグリーンボンドを発行しました（発行額100億円）。新規実行で充当は完了しております（2021年3月末現在）。

また、2021年5月に「群馬銀行グループ グリーン／ソーシャル／サステナビリティボンドフレームワーク」を策定しました。本フレームワークでは、グリーンボンドフレームワークにおけるグリーンプロジェクトに加え、社会課題に寄与するソーシャルプロジェクトを資金使途に追加しています。

尾瀬保護財団への寄付

当行と委託会社が受領する信託報酬の一部を尾瀬の環境保全活動を行う尾瀬保護財団に寄付する自然環境保護ファンド「尾瀬紀行」を取扱っています。また、株主優待「寄付コース」による同財団への寄付も取扱っています。

《2020年度実績》 ●「尾瀬紀行」による寄付…………… 880,256円（累計：15,673,300円）

●株主優待「寄付コース」による寄付…………… 218,500円（累計： 395,000円）

「ぐんぎんの森」整備活動

環境保全活動の一環として、群馬県と締結した「県有林整備パートナー事業実施協定」により指定された森林を「ぐんぎんの森」と命名し、その整備・保全活動に取り組んでいます。

新入行員研修には森林整備体験を組み込み、森林の整備・保護に関する行員教育を実施しています。（2020年、2021年は新型コロナウイルス感染症の影響により未実施）



群馬銀行環境財団の活動

快適で健全な環境の整備向上を目指して設立した公益財団法人群馬銀行環境財団では、環境保全および環境の調査・研究に対する啓発・助成活動に取り組んでいます。

啓発活動として、小学生を対象に地球温暖化などの環境問題について体験学習を行う「エコ・キッズキャンプ in 赤城山」と中学生を対象に渡良瀬川の源流や旧足尾銅山を訪ね、環境学習、植樹体験などを通じ自然環境を守ることの大切さを学習する「環境探検隊」を実施しています。（2020年は新型コロナウイルス感染症の影響により未実施）

助成活動として、2020年12月、群馬県内の小・中学校や高等学校の中から環境改善や保全について実践的で優れた活動を行った10校を「群馬銀行環境財団教育賞」として発表しました。また、2021年3月には、自然環境の保全活動や調査研究に優れた業績をあげた7団体を「群馬銀行環境財団賞」として表彰しました。

社会貢献活動等への取組み

当行では、地域の産業や文化の発展と豊かな生活づくりのお役に立ちたい、よき市民でありたいという企業理念のもと、地域における文化遺産の保護に加え、芸術・文化・スポーツ活動、金融経済教育の支援に取り組んでいます。

「ぐんぎん SDGs 私募債」等の取扱い

SDGs 達成への貢献ニーズをお持ちのお客さま（企業）の資金調達支援では、当行が受け取る社債発行手数料の一部を学校・地公体や SDGs 達成への取組みを行う団体等に寄付・寄贈する私募債を取扱っています。

また、SDGs 達成に向けた事業に自ら取組むお客さまの手数料優遇等を行う私募債も取扱っています。

SDGs 私募債等による寄付（2021 年 3 月末）

■累計発行額 826 億円

（環境配慮型および地方創生私募債を含む）

■寄付累計額

75,233 千円 / 460 件（地方創生私募債を含む）

■うち公的医療機関向け等への寄付

1,900 千円 / 13 件

群馬県世界遺産・ぐんま絹遺産継承基金への寄付

当行と委託会社が受領する信託報酬の一部を世界文化遺産「富岡製糸場・絹産業遺産群」の保護活動のために寄付を行う投資信託「群馬の絹遺産」を取扱っています。また、株主優待「寄付コース」による基金への寄付も取扱っています。

《2020 年度実績》 ●投資信託「群馬の絹遺産」による寄付 … 912,933 円（累計：7,684,901 円）

●株主優待「寄付コース」による寄付 … 62,000 円（累計：105,000 円）

金融教育への支援

①群馬大学への講師派遣

2017 年度より群馬大学との連携講座を実施しています。2020 年度は「学びのリテラシー」講座に講師 3 名を派遣し、金融経済について講義を行いました。

②高校での社会人講話

太田市との包括連携協定に基づき、太田市立太田高等学校で開催された「社会人講話」において、「お客さま本位の業務運営と接客対応について」と題し行員が講演を行いました。

③小中学生・高校生の体験学習の受入れ

地域の小中学校の児童・生徒の体験学習を各営業店で、高校生の企業見学を本店で受け入れています。

④エコノミクス甲子園

高校生が楽しみながら金融経済に触れ、金融知力を身につける機会を提供するため、全国高校生金融経済クイズ選手権「エコノミクス甲子園」の群馬大会を主催しています。

スポーツ活動への支援（群馬銀行グリーンウイングス）

バレーボールの V リーグ女子 2 部（V2）に参戦している「群馬銀行グリーンウイングス」は、昨シーズン V2 連覇を果たしました。V1 チームとの入替戦では惜しくも敗れ、悲願の V1 昇格は来季以降に持ち越しになりました。

今後も V リーグのほか国体出場を目指して活動していくとともに、バレーボール教室などを通して地域社会への貢献活動も積極的に行っていきます。



群馬銀行グリーンウイングス

芸術・文化活動への支援

群馬交響楽団に対し、定期演奏会を協賛するなど活動を支援しています。

なお、群馬交響楽団は地域社会に密着した芸術活動を行っており、定期演奏会のほか、小中学生を対象とした移動音楽教室を開催するなど、地方における音楽文化の向上に貢献しています。

ゴールドリボン支援自販機の設定

売上金の一部が認定 NPO 法人ゴールドリボン・ネットワークを通じて小児がんの治療研究開発などの支援に役立てられる「ゴールドリボン支援自販機」を設置しています。該当自販機で 1 本購入するごとに、代金の一部が小児がんの子どもたちへの支援になります。

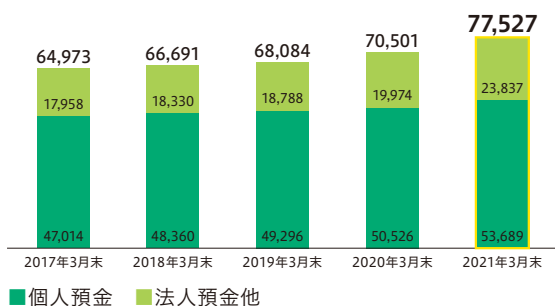
財務情報ハイライト

預金残高

2021年3月末残高 **7.7兆円**

(単位: 億円)

(地方銀行62行中11位)

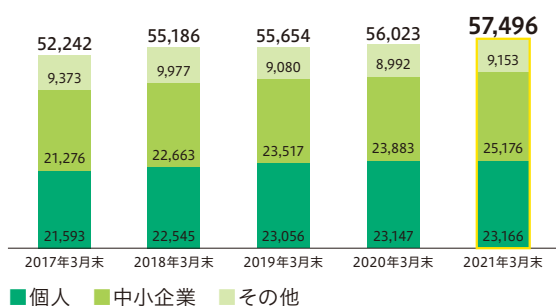


貸出金残高

2021年3月末残高 **5.7兆円**

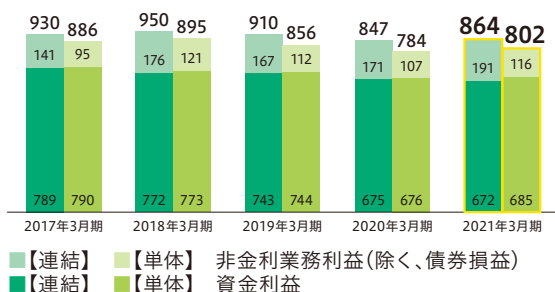
(単位: 億円)

(地方銀行62行中10位)



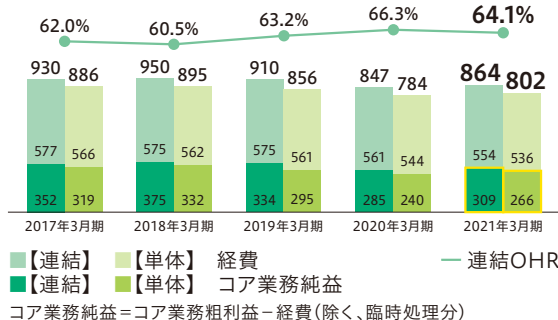
コア業務粗利益の内訳

(単位: 億円)



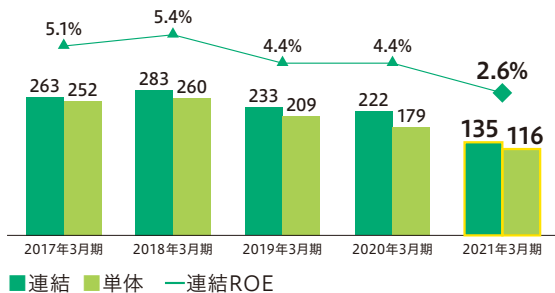
コア業務純益

(単位: 億円)



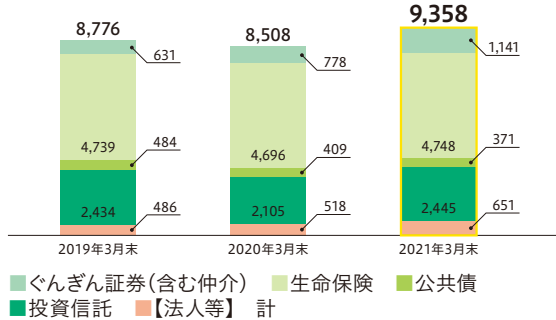
当期純利益

(単位: 億円)

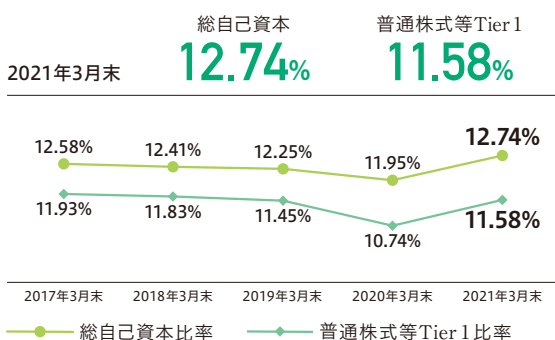


預かり金融資産残高(含む、ぐんざん証券)

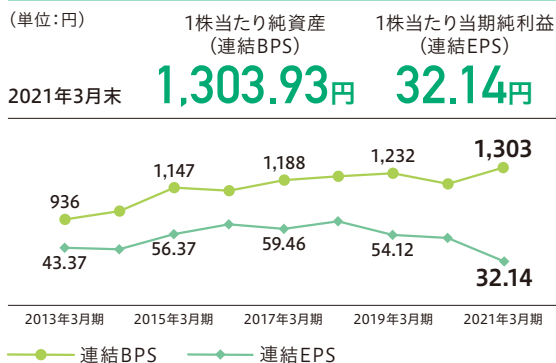
(単位: 億円)



連結自己資本比率(国際統一基準)



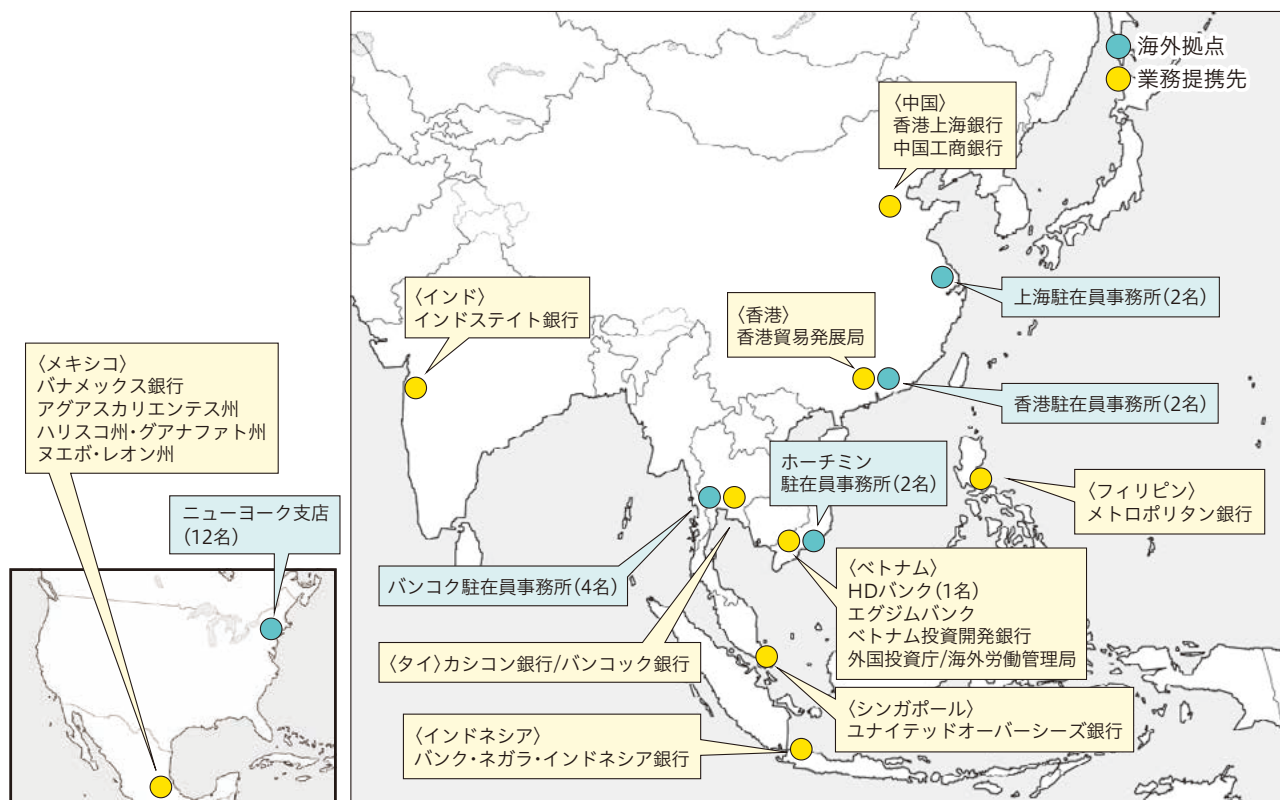
1株当たりの指標(連結)



非財務情報ハイライト

ESG	ステークホルダー	主な取組み		2018年度	2019年度	2020年度
環境 (E)	地域社会	紙(コピー用紙)使用量		65,961千枚	65,576千枚	55,867千枚
		グリーンボンドによる環境改善効果 (2019年11月に発行)		—	—	12,183 t-co2/年
		尾瀬保護財団 への寄付	自然環境保護ファンド 「尾瀬紀行」による寄付額 (累計額15,673千円)	1,051千円	960千円	880千円
			株主優待「寄付コース」による 寄付額(2019年度より)	—	176千円	218千円
		公益財団法人群馬銀行 環境財団の活動	助成金(財団賞・教育賞)	2,060千円	2,115千円	1,965千円
社会 (S)	お客さま	事業性評価に基づいた課題解決件数(2019年度以降の累計)		—	739件	1,312件
		事業承継支援先数(2019年度以降の累計)		—	3,083先	5,069先
		ぐんざん経営倶楽部会員数(年度末時点)		12,067先	13,212先	13,505先
		遺言信託・遺産整理業務受託件数		36件	71件	167件
		行員のFP1級取得者数(年度末時点)		116人	123人	129人
	地域社会	SDGs私募債による寄付金額/件数 (累計額 75,233千円/460件)		16,513千円 99件	16,408千円 114件	13,181千円 112件
		群馬県世界遺産・ ぐんま絹遺産継承 基金への寄付	富岡製糸場・絹産業遺産群保護 活動応援ファンド「群馬の絹遺産」 による寄付額(累計7,684千円)	1,256千円	1,022千円	912千円
			株主優待「寄付コース」による 寄付額(2019年度より)	—	43千円	62千円
		Vリーグ女子2部 「群馬銀行グリーンウイングス」の活動成績		3位	優勝	優勝
	従業員	女性管理職比率		10.0%	11.2%	12.7%
		各種認定取得   				
ガバナンス (G)	経営・株主	社外取締役比率		2/9	2/9	3/9
		業績連動型の株主還元の実施(株主還元率)		41.9%	47.2%	46.7%

海外拠点と業務提携先



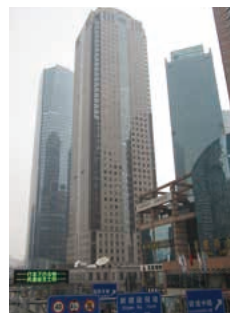
ニューヨーク支店

780 Third Avenue,
6th Floor New York,
NY 10017



香港駐在員事務所

Suite 1803, Tower 1, The Gateway,
Harbour City, 25 Canton Road,
Tsim Sha Tsui, Kowloon,
Hong Kong



上海駐在員事務所

18th Floor, Hang Seng Bank Tower,
1000 Lujiazui Ring Road,
Pudong New Area, Shanghai,
P.R. China



バンコク駐在員事務所

689 Bhiraaj Tower at
EmQuartier, 16th Floor Unit
1612, Sukhumvit Road,
Klongton-nue, Wattana,
Bangkok 10110 Thailand



ホーチミン駐在員事務所

Zen Plaza 904, 54-56 Nguyen
Trai St., Ben Thanh ward, Dist. 1,
Ho Chi Minh City, Vietnam



発 行 2021年8月
群馬銀行 総合企画部 広報室
〒371-8611 群馬県前橋市元総社町194
電 話 027-252-1111(代表)
<https://www.gunmabank.co.jp/>



LINE ID:
@gungin



ユーザーID:
@gunma_bank